

会 告

日本鉄鋼協会第 68 回
秋季講演大会講演募集

今秋 10 月 2 日から 3 日間富山大学で開催予定の第 68 回講演大会において講演ご希望の方は、下記要領お含みのうえふるつてお申込み下さい。

- (1) 講演申込締切 昭和 39 年 6 月 1 日 (月) 期日厳守のこと。
- (2) 講演申込先 東京都千代田区丸の内 1-1 交通公社ビル
日本鉄鋼協会
- (3) 申込用紙 添付の申込用紙に必要事項記入のうえ切り取つて原稿同封のうえご送付下さい。 (原稿が添付されていない申込み、電話・電報による申込みは理由の如何にかかわらず受付けません)
- (4) 講演論文原稿 講演時間は 20 分以内、講演論文原稿は図・写真・表を含め 8 枚以上 16 枚まで、図・写真は 5 コ以内とします。その他は会告 N42~N47 ページに掲載の寄稿規程に従つてご執筆下さい。
- (5) この講演論文原稿は会誌「鉄と鋼」昭和 39 年 9 月号「第 68 回講演大会講演論文集」として刊行いたしますので、編集および印刷の都合上締切後は受付いたしませんから、原稿は期日までに必ずご送付願います。
- (6) 講演される方は会員に限りますので、会員外の方で講演希望の方は入会の手続終了後お申込み下さい。
- (7) 講演会場における講演用図表寸法は横 1,200mm 以内、および図表掲示場所は 2 カ所以内といたします。
- (8) 講演会場における幻灯用フィルムは 35mm 版に限ります。
- (9) 協会所定の原稿用紙は 1 冊 30 枚綴り 30 円、送料は下記の通りです。

1 部	20円	4 部	80円
2 部	40円	5 部	90円
3 部	60円	6 部	100円

講演大会講演申込用紙 ※印協会事務局で記入

切取り線

※ 受付番号		和文	英文	講演題目	幻燈否	勤務先	学位番号	氏名 (講演者○印)
和文								
								講演者 (ローマ字) 氏名 (full name)

『鉄と鋼』臨時増刊号 鋼管分科会報告書刊行のお知らせ

本会では共同研究会の各部会の成果を「鉄と鋼」臨時増刊号として発行しておりますが、鋼材部会鋼管分科会報告書を6月初旬に「鉄と鋼」第50年第7号臨時増刊号として刊行いたすこととなりました。

本報告書は鋼管分科会が昭和30年に発足して以来、7年間の研究成果を編集したもので、1. 総説、2. 設備概要、3. 継目無鋼管、4. 溶接鋼管、5. 精整設備、6. 冷間加工、7. 管理、8. 疵、の各章からなり、わが国における鋼管設備、技術の現状を示す貴重な資料であります。本会会員には無償配布いたしますが、会員外の方々にも参考となることも多いと思われまますので、ご希望の方は鉄鋼協会宛分譲申込みされるようご勧誘下さい。

定価 500 円 送料 30円 (申込みの際費用添付のこと)

申込先 東京都千代田区丸ノ内1の1 日本交通公社ビル

日 本 鉄 鋼 協 会

日本鉄鋼協会誌原稿表紙

* 分類番号		* 昭和 年 月 日 受付			* 掲載号数		第	年	第	号	
原稿の種類		講演論文・投稿論文・依頼論文・技術資料・講義・特別講演・その他									
題		和文									
		欧文									
目											
著者氏名 (講演者○印)	会員資格	勤務先	称号	氏名	(ローマ字) (Full name)	原稿枚数					
	会員					表数					
	会員					図数					
	会員					写真数					
寄稿者連絡先 および氏名		鉄と鋼英文誌 掲載希望									
発表の方法		昭和 年 月 日		第 回		(支部)講演会発表・その他					
備考		有 料 別 刷							部		

*印は記入せぬこと (協会事務局で記載)



総会決議事項(定款中一部変更)のご通知

さる4月4日、東京都文京区本富士町東京大学工学部において開催されました本会第49回通常総会で、下記の通り定款の一部変更が満場一致をもつて議決せられましたのでお知らせいたします。

記

定款中一部変更の件

第19条中「1 理事20名(うち会長1名、副会長2名、専務理事1名)とあるを「1 理事26名以上30名以内(うち会長1名、副会長2名、専務理事1名)」と改める。

付 則

- 1 昭和39年度通常総会において選挙される理事のうち1名の任期は、第23条の規定にかかわらず就任後第1回の通常総会の終るまでとする。
- 2 第19条の変更定款の施行に伴ない増加する理事は、昭和39年度通常総会において選挙を行ない、変更定款の認可のあつた日に就任するものとする。

会費お払込みについてのお願い

昭和39年分会費のお払込みについては本誌第49年第13号(昭和38年12月発行)会告をもつてお願いいたしましたが、まだお払込みになつていない方は同号綴込みの払込用紙をご利用の上、この際お払込み下さいますようお願い申し上げます。またご都合で弊会の下記取引銀行へお払込み下さいませも結構でございます。

なお会費は毎年12月に翌年1月から12月までの1カ年分(暦年制)を一度にお払込みになるか、または12月に翌年1月から6月までの6カ月分を、6月にその年の7月から12月までの6カ月分をと二度にわけてお払込みいただくことになつてをりますから念のため申し添えます。

記

正会員会費 2,000 円、学生会員会費 1,200 円

宛先 東京都千代田区丸の内1丁目1番地交通公社ビル
社団法人 日 本 鉄 鋼 協 会

振替貯金口座 東京 193

取 引 銀 行 三菱銀行鉄鋼ビル支店、第一銀行本店、住友銀行東京支店、
東海銀行丸の内支店、日本勧業銀行東京駅前支店

日 本 鉄 鋼 協 会 役 員

さる4月4日開催の本会第49回通常総会において、理事、監事および評議員の選挙が行なわれ、また同日開催の理事会において会長ならびに副会長の互選が行なわれました結果、本年度の本会役員は次の通りであります。

会 長	湯川 正夫 (八幡製鉄)							
副 会 長	芹沢 正雄 (富士製鉄)							
〃	作井 誠太 (東京工業大学)							
専務理事	田畑新太郎							
理 事	茨木 正雄 (大阪大学産研) 編集			今井勇之進 (東北大学金研) 研究				
	磐城 恒隆 (大同製鋼) 企画			植山 義久 (川崎製鉄千葉) 企画				
	小野 健二 (東北大学選研) 企画			大浜 侃 (日新製鋼) 編集・庶務				
	河田 和美 (金材技研) 研究			木寺 淳 (通産省) 企画・庶務				
	木下 正 (東都製鋼) 研究			北原 光雄 (三菱製鋼) 企画				
	五弓 勇雄 (東京大学) 研究			佐藤 忠雄 (日本特殊鋼) 編集				
	佐野 幸吉 (名古屋大学) 研究			雀部 高雄 (東京大学生研) 編集				
	高尾善一郎 (神戸製鋼) 研究			辻畑 敬治 (八幡製鉄) 編集・研究				
	長谷川正義 (早稲田大学) 研究			深堀 佐市 (日本鋼管) 会計・企画				
	松本 茂樹 (日本製鋼) 研究			宮下格之助 (日立金属工業) 会計・企画				
	山本 信公 (住友金属工業) 研究			吉崎 鴻造 (東洋鋼飯) 企画				
監 事	俵 信次 (太平金属工業)			奥村 虎雄 (日本鉄鋼連盟)				
評 議 員	足立 彰	青 武雄	赤坂 武	明石 和彦	秋田 武夫	浅野 檜一郎		
	葦沢 大義	網谷 俊平	綾部 先	荒木 透	井上 友善	井上 道雄		
	井関 剛	井村 荒喜	井村 竹市	伊木 常世	伊藤 正夫	石井健一郎		
	石田 四郎	石田 退三	石田 稔	石原 正美	石原 善雄	市川 忍		
	猪崎久太郎	稲田 辰男	稲山 嘉寛	今井 光雄	今里 広記	入 一二		
	岩井 英夫	岩瀬 慶三	上野建二郎	内川 悟	梅津 良之	越後 正一		
	遠藤勝治郎	小城 五郎	小田原大造	小野 清造	小野田武夫	太田 鶏一		
	太田 久男	大谷 秀数	大谷米太郎	大野 嘉市	大原 久之	大森 基一		
	大元 博	大矢根大器治	岡田 儀一	岡田 知彦	岡村 武	沖 豊治		

荻野 一	奥村 福次	香川 英史	香川 進	香春三樹次	嘉村 平八
海江田弘也	鍵和田暢男	桂 寛一郎	門野 正二	金田 義夫	金森 九郎
金森 祥一	川勝 一郎	川又 克二	川本 勇	川村 宏矣	河合 良成
河上 益夫	喜代永政雄	菊池 浩介	岸本吉左衛門	北 耕二	北川 一栄
絹川武良司	久米 定男	草川 隆次	葛 誠四郎	楠木 直道	黒田 勝正
黒田 隆之	桑田 賢二	小島 義正	小島 長作	小平 俊雄	小林佐三郎
幸田 成康	駒井健一郎	近藤 八三	佐々川 清	佐藤武三郎	佐藤 知雄
西郷 吉郎	斎藤 省三	斎藤 弥平	酒井 佐敏	里井孝三郎	三本木貢治
志賀 芳雄	志村清次郎	清水 荘平	清水 芳夫	鹿喰 清一	芝崎 邦夫
島村 哲夫	菅野 猛	梶山 正孝	関 文男	関 良之	曾我野秀雄
荘 清彦	園田 一夫	田中 勘七	田地川健一	田中 国雄	田村純治郎
多賀谷正義	高石 義雄	高瀬 孝夫	高橋麟太郎	滝沢 工	滝口 征夫
武田 喜三	武田 修三	谷川 正夫	谷口 光平	谷村 熙	俵 隆治
津田 久	土屋 勤	出淵 国保	塚本 清	外島 健吉	土光 敏夫
富山英太野	名児耶 馨	中川不器男	中島 省一	中島 正保	中野 宏
中安 閑一	中山 育雄	南里 辰次	丹羽貴知藏	西 博	西野 武彦
西村吉太郎	西村 秀雄	西山弥太郎	錦織 清治	野島福太郎	馬場幸一郎
萩原 巖	橋浦 彦三	橋本 宇一	橋口 隆吉	蜂谷 茂雄	浜田 正信
原田 恵伍	日向 方斉	広田 寿一	平世 将一	不破 祐	福井 慶三
藤井 深造	藤川 一秋	藤木 俊三	藤田 俊三	藤本 一郎	堀田 秀次
堀田 之孝	本田宗一郎	増本 量	的場 幸雄	町永 三郎	松下 幸雄
松田 公扶	松塚 清人	松永陽之助	松原与三松	松本兼二郎	松本 豊
三谷 裕康	三井 太倍	三ヶ島秀雄	水島三一郎	水上 達三	宮下 俊二
宮代 彰	武藤 千秋	村尾時之助	村田 巖	室井嘉治馬	毛利 定男
望月 要	森 暁	森 一美	森崎 晟	森田恵三郎	森田 志郎
森棟 隆弘	盛 利貞	八木貞之助	矢島悦次郎	矢野 雅雄	安田 勇治
安原 武彦	柳 武	山野上重喜	山内 二郎	山口 利彦	山田良之助
山本真之助	山本 博	養田 実	横田 正成	横山金三郎	吉井 周雄
吉岡 正三	吉田 衛	吉村タキノ	和田 亀吉		

情報活動についてのお知らせ

本会では事業の拡大にともない、資料委員会を設け内外の資料および情報の収集活動を行なっております。収集された資料を会員はじめ業界および学界において広くご利用いただくために、このたび下記の速報を発行することになりましたのでお知らせいたします。

1. 資料速報

この速報は当協会で購入した図書、資料、雑誌のリストで月に1度発行いたします。また会誌にも掲載いたします。

2. カタログ速報

この速報は当協会で購入した国内、外鉄鋼各社のカタログ、パンフレットのリストで月に1度発行いたします。なおこのカタログについては複写、カード(会社名、カタログ名、分類)の実費配布も希望によつて行ないません。

3. 各国事業案内速報

この速報は海外で行なわれる鉄鋼関係の学会、大会などの記事で学協会より通知のある度に発行致します。また会誌にも掲載いたします。

以上3種の速報は維持会員各社ならびに国内関連団体、大学、研究所に配布いたします。なお会員各位におかれまして、入手資料の閲覧、複写を希望される方は、本会調査課までお申込み下さい。

第12回 日本鉄鋼協会 九州支部合同講演大会開催案内 日本金属学会

本会九州支部では、日本金属学会九州支部共催のもとに下記の通り講演大会ならびに見学会を開催いたしますから多数ご参加下さいませようご案内申し上げます。

記

1. 講演会

日時 昭和39年6月5日(金) 13:00'~16:50'

場所 住友金属工業株式会社小倉製鉄所

北九州市小倉区許斐町1丁目(西鉄魚町電停下車徒歩約2分) Tel (56) 4121

講演時間	題	目	
1) 13:00~13:05	開会の辞	日本鉄鋼協会九州支部長	和田 亀 吉
2) 13:05~13:30	鉄鋼の内部摩擦に関する研究	八幡製鉄(株)八幡製鉄所	長 島 晋 二
3) 13:35~14:00	高塩基度焼結鉄について	住友金属工業(株)小倉製鉄所	古 賀 強 海
4) 14:05~14:30	LD転炉用耐火物の研究	黒崎窯業(株)	宮 武 和 海
10 分 休 憩			
5) 14:45~15:10	溶融鉄および溶融鉄合金の物性	九州大学工学部	川 合 保 治
6) 15:15~15:40	高炉における高圧操業のその後の推移	八幡製鉄(株)八幡製鉄所	白 石 芳 雄
7) 15:45~16:10	高温用バネ材料の材質的研究	熊本大学工学部	堀 田 秀 次
8) 16:15~16:40	耐熱鋼の欠陥とその防止対策	九州工業大学	三ヶ島 秀 雄
9) 16:45~16:50	閉会の辞	日本金属学会九州支部長	伊 藤 尚

2. 見学会

集合 昭和39年6月6日(土) 9:00 住友金属工業(株)小倉製鉄所玄関横集合

- 見学先
- 9:00~10:30 住友金属工業(株)小倉製鉄所
 - 10:40~11:50 (株)安川電機製作所小倉工場
 - 12:00~12:50 中 食 (於製鉄大谷会館)
 - 13:00~14:30 黒崎窯業(株)黒崎工場
 - 15:00~16:00 東海鋼業(株)若松工場北湊作業所

若戸大橋經由国鉄戸畑駅、西鉄幸町電停付近にて 16:30 頃解散の予定

見学会費 200円(中食費)当日お払込下さい。

申込要領 ハガキにて5月28日(木)まで勤務先、職名、氏名、講演会出欠、見学会出欠、明記のうえ、北九州市八幡区枝光町1の1、八幡製鉄所技術研究所内 日本鉄鋼協会九州支部 Tel (6) 0311 までお申込下さい。

宿 舎 各自でお手配下さい。

東海支部学術講演会, 特別講演会, 見学会開催案内

本会東海支部では下記により学術講演会, 特別講演会, 見学会を開催いたします。会員多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

日 時	会 場	学術講演会, 特別講演会	目 的	講 演 者 (○印)
9・00~9・05	名古屋大学工学部2号館南館内 (名古屋市千種区不老町)	開 会 の 辞		支部長 関口春次郎
1 9・05~9・25		Fe-Mn, Fe-Cr, Fe-S 系, 熔鉄の窒素吸収速度について	名大工 井上 道雄, ○長 隆郎	
2 9・25~9・45		CO-H ₂ 混合ガスの還元鉄による CO 分解について	名工大 平尾 次郎, 中央発条 ○出口 武	
3 9・45~10・05		熔融金属の脱酸に関する基礎的研究	名大工 佐野 幸吉, 坂尾 弘, 伊藤 公允, ○山内 陸文	
10・05~10・20		休 憩		
4 10・20~10・40		含湿水素による固体鉄の脱炭	名工試 蓑輪 晋, ○加藤 誠	
5 10・40~11・00		鉄酸化物と Al ₂ O ₃ との固相反応について	名工試 蓑輪 晋, ○山田 守, 水田 雅穂	
6 11・00~11・20		溶融鉄からのフェームの生成について	名工試 蓑輪 晋, ○小坂 岑雄	
7 11・20~11・40		Be を含むマグネシウム合金の高温固体での Be の分布	名工大 市川 理衛, ○斎藤 玲子	
8 11・40~12・00		ばねのシットピーニングに関する研究	名工大 矢島悦次郎, ○古沢浩一, 東郷製作所 小笠原伸行	
12・00~13・00		昼 食		
特 別 講 演				
13・00~14・30		超耐熱合金の最近の進歩	前名大教授 武田 修三	
14・30~14・40		休 憩		
9 14・40~15・00		製材用帯鋸鋼の二, 三の実験	静岡工試 花井 優, ○日野 博之, 今沢 好明	
10 15・00~15・20		錫蒸着膜の電子回折的研究 (第2報)	愛知学芸大 ○室 善助, 山田 功, 神谷 誠司	
11 15・20~15・40		カドミウム蒸着膜の電子回折的研究	愛知学芸大 ○室 善助, 山田 功, 神谷 誠司	
12 15・40~16・00		静荷重, 衝撃荷重を加えた Al 箔, Sn 箔の X線的研究	愛知学芸大 ○室 善助, 中根 庸夫, 岡戸 武司	
13 16・00~16・20		溶接鋼の衝撃値と疲れ強さについて	名大工 益本 功, ○玉置 維昭, 加藤 隆司, 佐藤 隆也, 川上 皎	

工 場 見 学

日 時 昭和39年5月25日 (月) 9時00分

栄町テレビ塔下に集合

見学工場 トヨタ自動車工業株式会社

定 員 50名

見学希望者は氏名, 勤務先, 職名などを明記のうえ, 参加費 ¥ 150 円を添え20日までに支部宛 (名古屋市千種区不老町名古屋大学工学部金属工学教室 日本鉄鋼協会東海支部) お申し込み下さい。ただし定員を超過した場合に抽せんによりお断わりすることがあります。
(同業者はお断わり致します)

耐熱金属材料の発達と生産の問題に関する 国際シンポジウム開催についてのお知らせ

チェコスロバキア科学技術協会 (Czechoslovak Scientific and Technical Society) は鉄鋼研究協会 (Iron and Steel Research Institute) と共催で標記シンポジウムを開催することになり下記の通り案内がありました。本会会員の論文の投稿や参加が望まれておりますのでお知らせいたします。なお詳細については本会にお問い合わせ下さい。

記

と き	1964年9月3日～5日
場 所	プラハ (チェコスロバキア首府)
テ ー マ	① 耐熱低合金 ② 12% Cr基耐熱鋼 ③ オーステナイト耐熱鋼 ④ 耐熱特殊鋼
行 事	第6回 Brno 国際見本市見学, 工場, 研究所見学
参 加 費	\$ 50 (但しプラハでの滞在費は上記主催協会にて一切負担されます)

第7回自動制御連合講演会講演募集

主催学会	計測自動制御学会, 中部自動制御研究会, 日本機械学会, 日本自動制御協会, 日本繊維機械学会
参加学協会	会応用物理学会, 化学工学協会, 計装研究会, 電気学会, 電気通信学会, 日本鉄鋼協会
幹事学協会	中部自動制御研究会
講演開催期日	昭和39年10月19日 (月) 20日 (火) 21日 (水)
講演会場	名古屋大学工学部, 第2号館 (名古屋市千種区不老町)
講演申込	①講演希望者は所属の主催または参加学協会を通じ指定の申込用紙により申込して下さい。 ②講演内容はすでに発表されたものでもさしつかえないが, なるべく最近の研究に属するものが望ましい。③講演時間は約20分 (討論を含む) の予定, ④講演の採否, などは講演申込をうけた学協会に一任せられたい。⑤申込用紙は所属学協会へ請求して下さい。
部 門	第1部 自動制御理論 第2部 自動制御要素 第3部 自動制御の各種工業への応用 第4部 計 測
講演申込締切期日	7月20日 (所属学協会必着)

講演前刷 オフセット印刷といたしますので, 原稿用紙および書き方の詳細は幹事学会から送付いたします。前刷原稿は8月20日 (木) までに直接名古屋大学工学部内第7回自動制御講演会係宛 (名古屋市千種区不老町) 提出して下さい。

「鉄と鋼」講演論文寄稿規程

講演論文は本協会会員が本協会講演大会においてその研究結果を発表するために、その講演大会で発表する予定の研究結果を講演論文としてあらかじめ協会に提出し、講演論文集に掲載されるものである。講演論文の内容は著者の独創的研究結果で、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が正確に記述されているものとし、講演論文の長さは、**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙8枚以上16枚まで、図・写真はあわせて5枚以内**として、規程の締切日までに提出しなければならない。

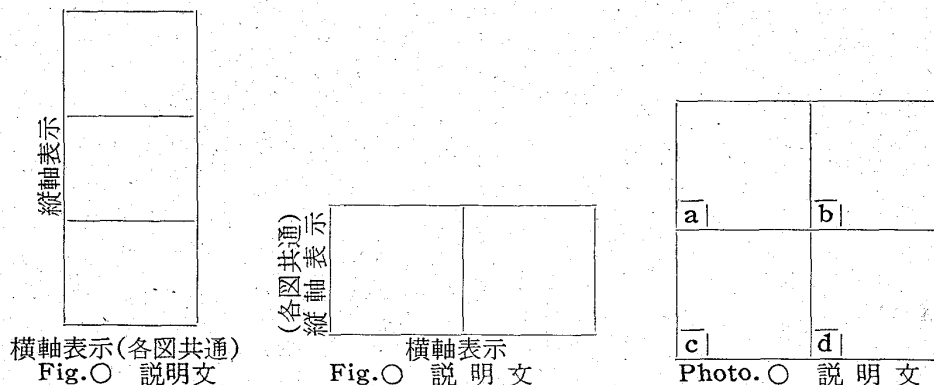
- (1) 講演論文は、本誌に載せる前にほかの学協会の講演会において発表されないものに限る。
- (2) 講演論文は、年2回(春、秋)開催される本協会講演大会において発表する予定の研究結果をまとめ、本協会によりそのつど定める期限内に協会へ提出されるものとする。
- (3) 講演論文の内容は著者の独創的寄与を主体とするもので、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が明確に記述されているものとする。内容が豊富な場合には、第1報、第2報の分割形式としてもよい。
- (4) 原稿の表紙および原稿用紙は本協会所定のものを用いる。原稿の表紙には所定事項を確実に記入し、原稿は左横書きとする。
- (5) 平易な口語体を用い、漢字は特殊な専門用語のほかは当用漢字を用い、かなは新かなづかい(第4表の例を参照)によること。
- (6) 講演論文には必ず英文題目、100語以内の英文要旨、英文要旨の和訳文を添付する。英文要旨は編集委員会で審査の結果、Tetsu-to-Hagané Overseasに掲載されることがあるので、それによつて主要成果がわかる程度に書かれていること。
- (7) 講演論文の原稿の長さは、**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙8枚以上16枚までの範囲内に限定し、図および写真はあわせて5枚以内**とする。図および写真の占める面積については、下記の(15)項を参考にして正しく算定し、原稿枚数が規定外にならないようにする。また同一の事項を図・表両方で表わさないこと。
- (8) 文章には、最も読みやすくするために句点(、)および終止点(。)を適当に付ける。いずれの場合にも原稿用紙の1こまをあてる。
- (9) 数量を表わす場合にはアラビア数字を用い、単位は原則としてCGS単位系を用いるが、電磁気量の場合にはMKS単位系を用いてよい。単位の略記号は第1表の例に従う。周知でない単位には略記号を用いないこと。
- (10) 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが、周知のものはかたかな書きとする。なお必要な場合は原語を書き添える。元素名、合金名、化合物名はなるべく化学記号によつて示すが、周知の合金名、化合物名は化学記号表示を行なう必要はない。(第2表の例参照)
- (11) 英字、数字、ギリシャ文字はていねいに記し、混同しやすい文字はとくに注意して書くこと。英字の大文字、小文字、ギリシャ文字で混同しやすい文字はとくに赤字でⒺ、Ⓕ、Ⓖなどと傍記する。ゴチック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ——、~~~~を付けること。添字の上ツキ、下ツキは正確に記すこと。
- (12) 数式は印刷に便利のように注意し、 b/a 、 $(a+b)/c$ のように、不明確にならない程度になるべし少ない行数で表わすように書く。
- (13) 表はなるべく本文中に挿入すること。1つの表の大きさは、会誌の1ページの面積を考慮し、横の刷り上がり寸法7cmまたは14.5cm、縦の刷り上がり寸法18cm以内におさまるようにする。
- (14) 図・写真・表の説明は英文とする。写真には必ず倍率を記入する。
- (15) 図および写真は、横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上がり寸法の2~3倍大とし、下記の縮尺記号を記入しておくこと。

(i) 横7cm(縮尺A). (ii) 横14.5cm(縮尺B)

刷り上がり後の縦の寸法は18cm以内とする。

図および写真の横の縮尺が上記のように定まれば、縦の刷り上がり寸法も定められるから、図および写真の占める面積を算出し、下記の規準に従つてその面積に相当する字数を求め、原稿の長さが本規程(7)の範囲外にならないようにする。

縮尺Aの場合、刷り上がり面積 42 cm^2 は 400 字、すなわち所定原稿用紙 1 枚に相当する。
縮尺Bの場合、刷り上がり面積 87 cm^2 は 800 字、すなわち所定原稿用紙 2 枚に相当する。
図および写真を並列して 1 個に取り扱うことができるのは、下記の数例の場合に限る。



図は白紙、オイルペーパー、または青色方眼紙を用いて書き、図および図中の文字は縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書くこと。

- (16) 図および写真は散逸を防ぐため、原稿用紙または適当な大きさの台紙に貼付し、右下隅に著者名を記入すること。図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし、原稿中には右欄外にその挿入箇所を指定する。原稿本文中に図・写真挿入箇所を空白にあげないこと。
- (17) 参考文献は、通し番号を付け、本文の最後一括して番号順に示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号（かつこ付き）を上つき小数字で示す。
参考文献は著者名：雑誌名，巻数（発行年度），号数，ページ数の順に記載すること。
（例） R. K. GLASS: Blast Furn. & Steel Plant, 46 (1958), 2, p. 198~204
雑誌名は第3表の略記例に従う。単行書は、著者名：書名，（発行年度），ページ数，[出版社名]の順に記載する。
第2報以後の講演論文には必ずその前報を参考文献として示すこと。
- (18) 寄稿された講演論文の受理年月日は、本協会が定めた講演論文原稿締切日とする。
- (19) 寄稿講演論文は編集委員会において審査される。下記の各項のいずれかに該当するものは受理されない。
(a) 学術および技術への寄与がほとんど無いと考えられる場合
(b) 著者の独創的寄与がほとんど含まれていない場合
(c) その講演論文に直接関連するほかの重要な研究論文を参考文献として示してない場合
(d) 寄稿規程の(6)，(7)，(15)，に確実に従っていない場合およびそのほかの規定に著しく違反する場合
(e) 内容に顕著な誤りが含まれている場合
また編集委員会において、内容の一部を修正，削除することがある。
- (20) 支部講演会における発表は、講演論文の形では受理しないので、早期の誌上発表を希望するときは研究速報の形式で原稿を提出すること。
- (21) 講演論文の原稿は返却しない。また講演論文の別刷の印刷は行なわない。

第1表 単位およびその記号の例

量	単位の名称	単位記号	量	単位の名称	単位記号	
角 度	ラジアン	rad	工 率	キロワット	kW	
	度°		ワット	W	
長 さ	分秒'	エルグ毎秒	erg/sec		
	キロメートル	km	英馬力	HP		
	メートル	m	温 度	セツ氏温度°C	
	センチメートル	cm		絶対温度°K	
	ミリメートル	mm	熱 量	ジュール	Joule, (J)	
	マイクロン	μ		キロカロリー	kcal	
オングストローム	\AA	カロリー	cal			
キロX線単位	kX	熱伝導度	カロリー毎秒センチメートル度	cal/(sec. cm. deg)		
面 積	平方メートル	m ²	比 熱	ジュール毎キログラム度	Joule/ (kg·deg)	
	平方センチメートル	cm ²		カロリー毎グラム度	cal/g·deg	
	平方ミリメートル	mm ²	熱容量	ジュール毎度	Joule/deg	
体 積	立方メートル	m ³	電 流	アンペア	A	
	立方センチメートル	cm ³ , cc		ミリアンペア	mA	
	立方ミリメートル	mm ³	電流密度	アンペア毎平方メートル	A/m ²	
	キリットル	kl		電界の強さ	ボルト毎メートル	V/m
	リットル	l	電起電力	キロボルト	kV	
	ミリリットル	ml		ボルト	V	
時 間	年	year(年)	ミリボルト	mV		
	日	day(日)	電気容量	ファラッド	Farad, (F)	
毎分回転数	回毎分	rpm	電気抵抗	オーム	Ω	
	キロメートル毎時	km/hr		マイクロオーム	$\mu\Omega$	
速 度	センチメートル毎秒	cm/sec	コンダクタンス	モ	σ	
	メートル毎分	m/min	インダクタンス	ヘンリー	Henry, (H)	
加 速 度	センチメートル毎秒毎秒	cm/sec ²	電 力	キロワット	kW	
	サイクル毎秒	c/sec		ワット	W	
周 波 数	キロサイクル毎秒	kc/sec	磁界の強さ	エルステット	Oe	
	メガサイクル毎秒	MC/sec		アンペア毎メートル	A/m	
	質量	トン	t	磁 束	ウェーバ	Wb
キログラム	kg	マックスウェル	Maxwell, (M)			
グラム	g	密度	磁束密度	ウェバ毎平方メートル	Wb/m ²	
ミリグラム	mg			ガウス	G	
密 度	グラム毎立方センチメートル	g/cm ³	キロガウス	kG		
	力	ニュートン	N	組 成	容積パーセント	vol%
ダイン		dyn	重量パーセント		wt%, %	
応 力	重量キログラム	kgw	原子パーセント	at%		
	キログラム毎平方ミリメートル	kg/mm ²	エ ネ ル ギ ー	仕 事	ジュール	Joule
	グラム毎平方センチメートル	g/cm ²				
	バール	bar	重量キログラム・メートル	kgm		
ミリバール	mbar	キロワット時	kWh			
気圧	atm	モル濃度	モル毎リットル	mol/l		
水銀柱ミリメートル	mmHg					

第2表 論文中の術語の書き方例

1) 表題に用いる術語は不明瞭な省略語は用いない。

たとえば“………脱酸, 脱硫作用……”とし, ……脱O, 脱S……”は不可

2) 本文にて最初に述べる術語は, 内容の十分理解できる親切な表現を用いること。

たとえば“………生じた Hercynite($FeO \cdot Al_2O_3$)は………”

“平衡定数 K' , Gibbs の自由エネルギー G は………”

“マグネタイト (Fe_3O_4) を N_2 を含む CO で還元した結果, Fe_3O_4 は………”

“シリカ・カプセルをかぶせた低炭素鋼板を管状炉内で加熱したが, ほとんど脱炭しなかった。”

3) 本文にて繰返し用いる場合は化学記号, その他のすでに認められた省略記述でよい。

たとえば溶鋼中の成分 (無限稀釈液標準の場合) は C , O で表わし

〃 〃 (純液規準の場合) は $[Ni]$, $[Fe]$ などで表わす

また, たとえば, 文中に「オーステナイト」の語が多数出てくるときは, その最初のところで「オーステナイト(γ)」として以下「 γ 」を用いてよい。

4) 学術技術の進歩とともに日本語訳では十分表現できない言葉が次第に増してきているから, 下記の例のようにカナ書きとして術語を表わす。しかし意味のピッタリした簡明な日本語訳のある場合は慣用に従つてなるべく日本語を書くことを原則とする。次に例を示す。

i) カナ書きが妥当と思われるもの

ガス, エネルギー, プロパン
 リムド鋼, キルド鋼
 ポテンシャル
 窒化アルミニウム AlN
 ニオブ, タンタル
 グラファイト
 (エレクトロンプロブ) X線マイクロアナライザー
 ベアリング, または軸受
 オーステナイト, フェライト, バイナイト, インゴット, ビレット, フープ, パス, スケール, ステンレス鋼, クリープ, プレス, ロール, ブルーム, ブローホール, キャンバー, カーボメーター, セメンタイト, 板のクラウン, フェロアロイ, フランジ, ガイド, ジョミニー試験, マクロ腐食, マンドレル, マルテンパー, マルテンサイト, ノッチ, オーバル, ポリゴナイズ, スクラップ, セミキルド鋼, シャー, スラブ, スラッグ, ストリップ, タンデムミル, ビッカース硬さ(硬度計)

備 考

日本語になりきつている
 慣用の期間が長く, ピッタリしたよい訳がない
 ピッタリした日本語訳がなく慣用している
 窒化アルミの形は用いない
 または Nb , Ta (通常 Cb は用いない)
 または黒鉛
 略記としては $EPMA$, XMA などが慣用
 “メタル”は不可 (混同しやすい)

鉄冶金慣用語の例

ii) 原語を一度書き添えることが妥当だと思われるもの

フォーミング(foaming) フォーミングは forming もあり混同することもある
 パージング(purging)
 フラッターリング(fluttering)
 スカルピング(scalping) } 日本語に十分慣用されていない

iii) 省略的記述の例

78Ni-22Fe 合金 18-8ステンレス鋼の場合は慣用によつて Cr , Ni 省略
 Ni-Cr-Mo 肌焼鋼
 Ferro-Si-Zr フェロアロイの場合を表わす
 5% nital, picral など 化学記号表示の必要はない
 JIS-SUS 31 AISI, DIN, En その他同様
 U.S. Pat. 1,932,566 米国の慣例による
 Hb 100, Hrc 50 ブリネル, ロックウェル C 硬度値
 HNO_3 (5%) 分析の場合など “硝酸水溶液” に慣用

第3表 文献略記例

雑誌名	略記	雑誌名	略記
Acta Metallurgica	Acta Met.	Journal of the Iron and Steel Institute	J. Iron & Steel Inst.(U.K).
American Foundrymen's Society, Preprint	Amer. Foundrym., Preprint	Journal of Metals	J. Metals
American Institute of Mining, Metallurgical and Petroleum Engineers,		Les Mémoires Scientifiques de la Revue de Métallurgie	Mém. Scient., Rev. Mét.
- Blast Furnace, Coke Oven & Raw Materials Committee, Proceedings	Proc. Blast Furn.	Metal Finishing	Metal Finishing
- The Electric Furnace Committee, Proceedings	Proc. Electr. Furn.	Metal Finishing Journal	Metal Finishing J.
- National Open-Hearth Steel Committee, Proceedings	Proc. Open-Hearth	Metal Progress	Metal Progress
American Iron and Steel Institute,	Amer. Iron & Steel Inst.	Metal Treating	Metal Treating
- Annual Statistical Report	- , Ann. Stat. Rep.	Metaloberfläche	Metaloberfläche
- Contribution to the Metallurgy of Steel	- , Cont. Met. Steel	Metallurgia	Metallurgia
American Society for Metals, Preprint	Amer. Soc. Metals, Preprint	Metallurgia Italiana	Met. Ital.
American Society for Testing Materials,	Amer. Soc. Test. Mat.,	Métallurgie et la Construction Mécanique	Mét. et Constr. Mécan.
- Preprint	- , Preprint	Modern Castings	Mod. Castings
- Special Technical Publication	- , Spe. Tech. Pub.	Revue de Métallurgie	Rev. Mét.
Archiv für das Eisenhüttenwesen	Arch. Eisenhüttenw.	Schweissen und Schneiden	Schweissen u. Schneiden
Blast Furnace and Steel Plant	Blast Furn. & Steel Plant	Sheet Metal Industries	Sheet Metal Ind.
British Iron and Steel Research Association, Reports	Brit. Iron & Steel Res. Assoc., Rep.	Stahl und Eisen	Stahl u. Eisen
British Welding Journal	Brit. Welding J.	Stal	Stal
Centre de Documentation Sidérurgie, Circulaires d'Informations Techniques	Centre Doc. Sidér., Circ. Inform. Tech.	Steel	Steel
Corrosion	Corrosion	Steel Processing	Steel Process.
Foundry	Foundry	Transactions of the Metallurgical Society, American Institute of Mining, Metallurgical & Petroleum Engineers	Trans. Met. Soc., Amer. Inst. Min., Met. & Pet. Eng.
Foundry Trade Journal	Foundry Trade J.	Transactions of the American Society for Metals	Trans. Amer. Soc. Metals
Giesserei	Giesserei	Transactions of the Institute of Metal Finishing	Trans. Inst. Metal Finishing
Iron Age	Iron Age	Transactions of the Institution of Mining and Metallurgy	Trans. Instn. Min. & Met.
Iron and Coal Trades Review	Iron & Coal Trades Rev.	Transactions of the Society of Automotive Engineers	Trans. Soc. Auto. Eng.
Iron and Steel	Iron & Steel	United States Bureau of Mines, - Bulletin	U. S. Bur. Mines, - , Bull.
Iron and Steel Engineer	Iron & Steel Eng.	- Information Circular	- , Inf. Circ.
Iron and Steel Institute, Special Reports	Iron & Steel Inst., Spec. Rep. (U. K.)	- Mineral Industry Survey	- , Miner. Ind. Survey
Jernkontrets Annaler	Jernkont. Ann.	- Minerals Yearbook	- , Miner. Yearbook
Journal of the Institute of Metals	J. Inst. Metals	- Report of Investigations	- , Rep. Invest.
		Welding Journal	Welding J.
		Werkstoffe und Korrosion	Werkstoffe u. Korrosion
		Wire and Wire Products	Wire & Wire Products
		Zeitschrift für Metallkunde	Z. Metallkunde

第4表 かながきの例

可	不可	可	不可	可	不可	可	不可
明らか	明か	かりに	仮に	それぞれ	夫々	ほかに	外に, 他に
あたかも	恰も	きわめて	極めて	ただ	唯	ほとんど	殆ど
扱う	扱かう	……くらい	……位	ただし	但し	ほど	程
あらかじめ	予め	ここ	此所, 茲	たとえば	例えば	ほぼ	略々
表わす	表す	……こと	……事	ため	為	ますます	益々
ある	在る, 有る	異なる	異なる	だいたい	大体	また	又, 亦
あるいは	或は	ことに	殊に	ちなみに	因みに	まだ	未だ
(と)いう	(と)言う	これ, この	之, 此の	ちようど	丁度	まちがい	間違い
いかなる	如何なる	ごとく	如く	ついて	就て, 付いて	まで	迄
いずれ	何れ, いづれ	ごとに	毎に	ついに	遂に	みなす	見做す
いつそう	一層	さしつかえ	差支へ	(の)とおり	(の)通り	(して)みる	(して)見る
(して)	(して)	ささえる	支える	(する)とき	(する)時	向かう	向う
いただく	頂く, 載く	しかし	併し, 然し	……ところ	……所, 処	明りよう	明瞭
いつたん	一旦	しかも	而も, 然も	伴う	伴なう	もし	若し
(して)いる	(して)居る	したがって	従て……	ともに	共に	もちろん	勿論
いわゆる	所謂	……に従う	…にしたがう	ないし	乃至	…(し)やすい	…(し)易い
おいて	於て	しだいに	次第に	なお	尚, 猶	やはり	矢張り
おそい	遅い	しばしば	屢々	なぜ	何故	やや	稍
遅れる	おくれる	……しまう	…了う, 終う	など, ら	等	ゆえに	故に
おのおの	各々	十分に	充分に	ならびに	並びに	ようす	様子
おもな	主な	少ない	少い	なるべく	成可く	ように	様に
および	及び	すなわち	即ち, 則ち	はなはだ	甚だ	ようやく	漸く
かえつて	却て	すべて	総て, 全て, 凡て	ページ	頁	わかる	判る, 分る, 解る
かかわらず	拘ず	ずつ	宛, づゝ	ほう(の)	方(の)	わたつて	亘つて
かつ	且						
かなり	可成	その	其の				